

# どこに行っても迷わない 「海外でも無線LANを使ってみよう」の巻

この記事が書店に並ぶころにはイラク情勢とSARS(重症急性呼吸器症候群)はいったいどんな状況になっているのだろうか。本来なら連休を利用した海外旅行中でも仕事をしないといけな人へのタイムリーな内容としてまとめるつもりだったが……。そんな世界情勢とは裏腹に、海外ローミングの発表記事があとを断たない。情勢がよくなって海外へ行く機会が増えることを願い、海外で無線LANを使うための方法をここにまとめよう。



text: 五後ケース

## 海外ローミングサービスの特徴

@nifty、BIGLOBE、ぷらら、Panasonic hi-ho、DIONなどの大手プロバイダー会員なら、事前申し込みや登録料はいっさい不要!

事前にソフトをダウンロードして電話帳登録をしておけば、「接続」または「ログイン」ボタンを押すだけで使える。

料金は帰国してから、通常のプロバイダー料金と一緒に請求される(時間課金のため使いすぎに注意)

利用可能エリアが急増中。

## 802.11bなら海外でも 日本の無線LAN機器が使える

海外でインターネットにアクセスしたいとき、今までは電話を使ってモデムにアクセスする必要があった。ただ、国によってモジュラージャックの形状が違ったりホテルによっては回線の種類が違っていたりするため、そうすんなりとつながるわけでもなかった。

それと比べると無線LANは便利な規格だ。もっとも普及している802.11bなら海外でほとんどそのまま使えると言っていい。しかも日本は802.11bが使用する2.4GHz帯の利用可能範囲が広い国の1つなので、日本で買った無線LANカードは無敵。世界のどこでも使える。そのうえ、モデムを使ってインターネットにアクセスしようとする際に経験した、電極がどうかプラグがどうかをいっさい気にする必要がなくてたいへんラクだ。

## 大手プロバイダーの加入者なら 海外ローミングサービスが使える

大手プロバイダーに加入している人なら、日本で無線LANのサービスに加入しているかどうかにかかわらず、グローバル展開するローミング事業者のiPassがGRICを経由して、ほとんどの人が海外ロ

ーミングを利用できるはずだ。

接続についてはモデムの場合のように、それぞれの事業者が提供するツールをダウンロードして利用する。両方とも使い方は簡単だ。インストール後、自分のプロバイダーのアカウントを登録しておき、あとは現地で自分がいる場所を選んで接続ボタンを押すだけだ。

料金は1分あたり38～40円の時間課金になっている。高いと思うかもしれないが、モデムアクセスの場合、市内通話料金とホテルによっては追加手数料を取られることもあるので、それを考えれば無線LANのほうが安上がりかもしれない。しかも高速なのでかなりお得感があるだろう。注意すべき点は通信が終わったらこまめにログアウトすることだ。時間課金ということを忘れて、請求書を見てびっくりすることになりかねない。

iPass、GRIC双方とも接続ツール内にアクセスポイントのデータベースを持っているので、旅先のホテルや空港で利用できるかどうか事前に調べることができる。アクセスポイントの数はまだまだ多いとは言えないが、iPassは10か国約1000か所の無線LANアクセスポイントを持っていて、GRICもiPassと同様、11か国約700か所の無線LANアクセスポイントを有している。海外の主要な空港ではだいたい使えらと思うといいだろう。



## 海外の無線LANプロバイダーはローミングよりも安価に使える

実はローミング業者による無線LANローミングは結構割高だ。また、iPassやGRICは主にホテルや空港などでアクセスポイントを展開しているため、利用可能なホテルに泊まらない人や街のカフェで無線LANを使いたい人は、現地の無線LAN事業者のサービスに加入するほうが便利かもしれない。これらの事業者は、ほとんどの場合ウェブサイトから直接申し込めるので、ウェブが英語で書かれているというハードルさえ克服できれば、日本からでもクレジットカードを使って申し込むことが可能だ。

事業者によっては各種の料金プランがあり、月や年単位の契約以外に、プリペイド制や時間単位の後払い制などもある。たとえばT-Mobileの場合、プリペイドのプランであれば50ドルで300分利用できる。iPassと比較して1分あたりの料金

がだいたい半額になる(ただし1回のアクセスで最低10分ぶんチャージされる)。

ちなみに事業者によって無線LANスポットの設置傾向が異なるので、事前によく調べておいたほうがいだろう。無線LANスポットが一番番達している米国を例に比較すると、Wayportは空港とホテルに力を入れていてカフェはあまり多くないが、主要な地域ではどこかに必ずアクセスポイントがある。T-Mobile Hotspotはカフェが多いが地域が限定される。そのほか、シアトルのaXcess2goのように地域に特化した事業者も多い。また、ヨーロッパについてはつい最近まで2.4GHz帯の屋外利用に制限を設けていた国が多かった関係で無線LANスポットはまだあまり普及していないが、急速に数が増えている状況だ。

最後に、もちろん海外にもフリーの無線スポットは存在するので、事前によく調べておけばリーズナブルな無線LANアクセスも十分可能だ。



iPassConnect  
アクセスポイントの検索もできる。



GRIC Mobile Office  
事前に設定した場所のアクセスポイントが表示される。

## 海外ローミングサービス

サービス名	主なアクセスポイント	料金	ローミングしているISP	アクセス方法
iPass <a href="http://jwww.ipass.com/">URL http://jwww.ipass.com/</a>	空港やホテル	1分40円	@nifty、BIGLOBE、ぶらら、hi-ho、DION、HOTSPOTなど	専用ツールのiPassConnectを使用する
GRIC <a href="http://japan.gric.com/">URL http://japan.gric.com/</a>	空港やホテル	1分 38円～40円	So-net、BIGLOBE、exciteなど	専用ツールのGRIC Mobile Officeを使用する

## 海外の主な無線LANサービス

サービス名	主なアクセスポイント	料金	アクセス方法
Wayport【米国】 <a href="http://www.wayport.com/">URL http://www.wayport.com/</a>	全米535か所のホテルや空港	空港での利用は1日\$6.95。多彩な料金プランあり	ブラウザーによる認証
T-Mobile HotSpot【米国】 <a href="http://www.t-mobile.com/hotspot/">URL http://www.t-mobile.com/hotspot/</a>	スターバックスなど全米2300か所	プリペイドカードは\$50で300分。多彩な料金プランあり	ブラウザーによる認証
Boingo Wireless【米国】 <a href="http://www.boingo.com/">URL http://www.boingo.com/</a>	米国やヨーロッパのカフェなどに約1100か所	2日間\$7.95、1か月\$49.95など	専用ツールを使用
aXcess2go【米国】 <a href="http://axcess2go.com/">URL http://axcess2go.com/</a>	シアトル近郊	1時間\$4.95から	ブラウザーによる認証
BT Openzone【ヨーロッパ】 <a href="http://www.bt.com/openzone/">URL http://www.bt.com/openzone/</a>	英国	1か月£20(300分まで)、1か月£85(無制限)など	ブラウザーによる認証

そのほかの主なサービス

Swisscom Eurospot【ヨーロッパ】 [URL http://www.swisscom.com/eurospot/index.html.en](http://www.swisscom.com/eurospot/index.html.en)

KT-NESPOT【韓国】 [URL http://www.kt-nespot.com/](http://www.kt-nespot.com/)

海外の無線LANスポットを検索できるサイト

[URL http://www.80211hotspots.com/](http://www.80211hotspots.com/)

[URL http://www.hotspot-locations.com/](http://www.hotspot-locations.com/)



# ベンチャー企業のスカイリー・ネットワークス 日本発のマルチホップ技術で躍進する

無線LANは、基本的には端末間の点のネットワークだ。しかし、この制約を乗り越えるマルチホップ型ネットワーク技術が現在注目されている。今回話を伺うスカイリー・ネットワークスは日本でのフロントランナーだ。

## マルチホップネットワークの提供 素早く安価に構築できる 情報配信システム

マルチホップ型無線ネットワーク(メッシュネットワークともいう)は無線LAN機能を備えた端末間で動的に経路を探索し、情報を中継しながら目的の端末へ情報を配信する接続形態だ(図参照)。一般的にマルチホップネットワークはネットワークを「面」で構築するためのものと考えられている。しかし、スカイリー・ネットワークスの梅田英和社長は、「屋外での公衆サービスを構築するというよりも、比較的限られた空間において素早く安価にネットワークを構築して情報配信を行うのに向いている」と考えているようだ。

同社の「DECENTRA」はこのような考えに基づいたマルチホップ型ネットワークのためのプロトコルである。けれどもそれだけにとどまらず、P2P型のアプリケーションを開発するためのSDKやプッシュ配信を行うための「DECENTRA Server」なども同時に提供している。

## 具体的な利用方法を模索 リアルタイムな情報の やり取りに最適

ではマルチホップネットワークは、具体的には何ができるのだろうか。たとえば災害時に既設のネットワークインフラが機能しないような場合があると。現場で作業を行う人に「DECENTRA」とそれに対応するアプリケーションをインストールしたPDAやノートPCをあらかじめ持たせておけば、セットアップにまったく時間をかけずに、機器間が動的にネットワークを構築してリアルタイムで情報のやり取りを行うことができる。また、プッシュ配信を組み合わせることにより、美術館などで作品の前に行くとき自動でPDAに解説を表示させたり、スーパー内でクーポンを配信したりするなどの使い方が考えられる。プッシュ型アプリケーションは他の技術を使っても構築できるが、インフラ構築のコストなどを含めるとマルチホップネットワークを利用するほうが格段に早く、しかも安く実現できるという。

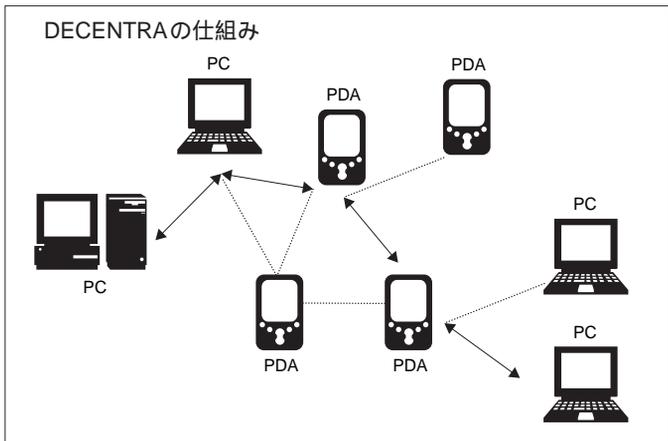


スカイリー・ネットワークス 代表取締役社長の梅田英和氏。

## 無線LANをセンサー的に活用 既成概念を越えた 使い方を提案

無線LANというと一般的には社内ネットワークや無線LANスポットなどネットワークのインフラ的な側面で捉えられることが多い。けれどもDECENTRAの技術は、インフラの概念だけでなく、無線LANをセンサー的に使うなどの新しい使い方を提案するだろう。

また、DECENTRAの技術は無線LANだけでなく、Bluetoothや微弱電波なども含めてさまざまな無線ネットワークで利用することができる。梅田氏は、「この仕組みを携帯電話に組み込むことができれば、携帯のネットワークを使用しなくても近距離の携帯電話間でインスタントメッセージなどのやり取りができるようになり、そこから大きなビジネスチャンスが生まれる」と考えているのだ。成熟してきたように見える無線LANも、まだまだ新たな使い途が期待できるようだ。



通信半径外の端末との通信は近くにある別の端末に中継して行う。動的に経路の変更を行うので、途中の端末が離れたり電源を落としたりしても別の端末を経由して接続を維持する。

### DECENTRA Ver2.0

パソコンやPDAなどの機器がアクセスポイントを介さずに相互に中継しながら通信するネットワークを構築するためのミドルウェア「DECENTRA」の最新版。無線LANやBluetoothだけでなく幅広くネットワーク全般に対応可能。P2Pアプリケーションを開発するためのSDKや、スターターキットも別途提供されている。

URL <http://www.skyley.com/>



東京・下北沢

# ベーカリーカフェ オープン

## 素材にこだわったパンの店で無線LANを楽しむ

若者の街(と書くとオジサン臭い?)下北沢はごちゃごちゃした街だ。北口のおしゃれなところと南口のアングラっぽい境界が一緒になっていて、比較的小さな街なのにブラブラしても飽きない。下北沢には執筆時点の4月上旬で無線LANスポットが3か所あるが、今回紹介するオープンは南口唯一の無線LANスポットだ。

オープンはテーブル席とカウンター席のこじんまりとしたパン屋さん&カフェで、場所は少しわかりづらいかもしれない。下北沢駅南口を出て、下北沢駅南口商店街の喧騒の中を下っていく。250メートルほど行くと少し道が開いたところになるのでその角を回り込んだところにある。外の通りはやはりごちゃごちゃしているが、入ってみると店内は窓が広く、不思議に開放感があって気分がいい。

メニューは全体的にリーズナブルだ。コーヒーが250円から。パンは秋田白神山地で発見された自然酵母を使ったという手作りのもので、小麦粉にもこだわっている。ちなみに、あんぱんや胡桃パン、カマンベールパンが税込み100円だ。

オープンはフリーの無線LANスポット

で、特別な手続きは特に必要なく、気軽に無線LANを利用できる。ウィンドウズXPならPCを立ち上げたあとに接続を許可するポップアップ画面が表示されるので、承認するだけですぐにつながる。アクセスポイントはメルコのFREESPOT仕様のもので、他人から共有フォルダーにアクセスされることはないため安心だ。しかしWEPは設定されていないのでアクセスする情報には注意して利用したい。なお、入り口近くの席では電源も利用できる。

ところで、この店ではどんな人が無線LANを使っているのだろうか? 話を伺ってみると、バリバリのビジネスマンというよりも、場所柄がフリーランスらしき人が移動中に立ち寄って利用するような場合が多いようだ。それに、デートの最中に立ち寄って彼女にPCを自慢するために(?)利用する人もちらほら見かけるとか。まだその手が使えたのか! 確かに下北沢なら無線LANを自慢してもあんまりオタクっぽくないかもしれない。



自慢のパンの数々。パン目当てなら午前中に行くほうが確実だ。オープンより写真提供



店内はこじんまりとしているが意外と開放感がある。



オープン外観。

### オープンデータ

営業時間: 8:00 ~ 20:00(年中無休)  
住所: 東京都世田谷区北沢2-14-1  
OTビル1階

<http://www.ovencafe.net/>

利用方法: 手続きなどは必要ないが、ESS-IDはFREESPOTに設定する。  
1時間以内での利用を。



## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)